

様式第2号（第5条関係）

平成29年12月28日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員 三田源幸 

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成29年10月21日 ～ 平成29年10月27日まで
- 2 旅行先 札幌市 自治労会館
- 3 目的 北海道自治体学会 議会技術研究フォーラム2017
- 4 関係書類 別紙のとおり



73.260

日 時	平成 29 年 10 月 21 日 14:00 ~ 18:00
視 察 先	札幌市 自治労会館
調査事項	北海道自治体学会: 議会技術研究フォーラム 2017 参加
対 応 者	北海道自治体学会・議会技術研究会 主催
1. 視察目的	1. 基調講演「市民による議会の意見と政策議会への展望」
2. 視察内容	神原 勝氏 (北海道大学名誉教授)
① 背景	・1980年代 「革新自治体」の減少、地方自治の停滞
② 特徴	・1985~6年 二元代表制下において議会は首長に対して
3. 主な質疑	野党的な位置に立つ、
4. 考 察	・2000年 分権改革、議会の権限の増大、市民が
(感想、政策提言、課題など)	議会の存在意義が刷りぬかれた
	・2001年 ニセウ自治基本条例
	・2006年 栗山町議会基本条例
	これからの10年間の議会改革の成果とは、
	議会改革の本質(議会基本条例)の登場し
	理論的に押し進める二元代表制論の存在、
	議会改革の議会間格差の進行、
	※議会の見える化が進んだ、改革の意思さえあれば
	いつでもやれる。情報収集は事務局の日常的な仕事、
	・第2ステージの議会改革に向けて
	① 政策議会への前進
	② 大都市自治体、広域自治体の議会改革
	③ 議会改革の市民基盤の強化
	議会こそ民主政治の学校

2. パネルディスカッション

「議会改革の第2ステージとは何か」

パネリスト

- ・木須美樹氏 (議会事務局職員×リーグリスト管理者)
- ・鶴川和彦氏 (栗山町議会 議長)
- ・西村 純氏 (議会技術研究会共同代表)

コーディネーター

- ・神原 勝氏 (北海道大学名誉教授)

① 第1ステージ それぞれの評価

② 第2ステージ 次なる課題は何か

③ (1) それぞれの主体 (市民、議員、議会、首長、職員)

において、あるいは相互の関係において変えるべきことは何か

(2) 議会が政策議会に成長するために、議会において

あるいは議会と首長、行政の関係において

変えなければならぬことは何か

議会改革の第1ステージは「議会基本条例」により

市民との約束を見える型にして 情報公開と

住民参加を進めてきた。また十分ではないが

住民の興味を博たれ、信頼されるためには

次の第2ステージへと進む必要がある。

議会報告会等の住民との関係の中から

種を見いだし、政策提案が出来る議会に

なることが必要であろう。